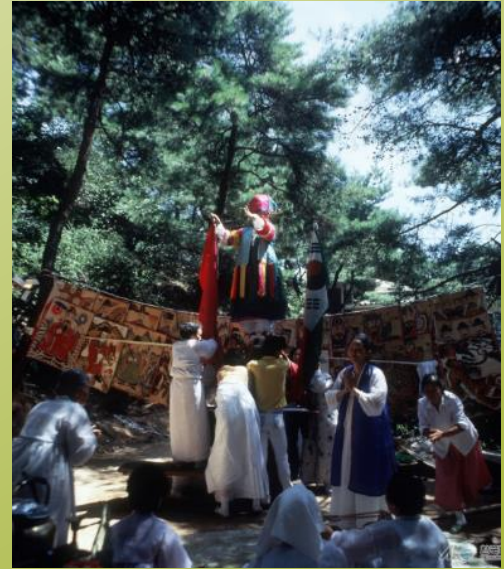


Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

ヴィクター・ターナーは
通過儀礼は祭儀を通して
限界を越える共同体の社会劇



Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

ヴィクター・ターナーは
社会的ドラマを通して
社会は生命を回復するという

A. 社会劇はファン・ヘネップの通過儀礼を

再解釈

アップは、人間は生存の危機に陥った場合、あるいは見知らぬ領域を通過したり身分の変化を経験する際に通過儀礼を経験するという。

ターナーは通過儀礼を社会普遍的な原理と構造である社会劇とみなす

B. アフリカのンデング族の成人式に着想を得

成人男性たちが宿舎に密かに入り、13歳の男児たちを拉致
この子どもたちが投げ込まれた場所こそが境界性（リミナリティ）

子どもたちは強烈な社会的連帯感と所属感を持って帰郷
共に生存しながら学ぶ共同体をコミュニティ

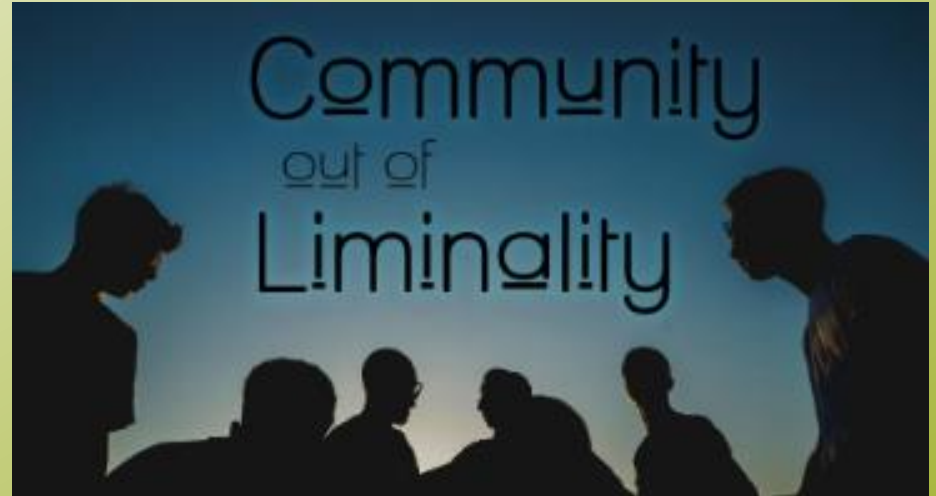
C. 構造→反構造→構造（structure）の弁証法

社会的ドラマは「全世界的に起こる普遍的な社会文化現象」であり、違反—危機—矯正/治癒—再統合/分裂の段階を経る。ファン・ヘネップが人生の危機において行われる祭儀、例えば成人式・結婚式・葬儀・出産と妊娠などに関心を集中したのに対し、ヴィクター・ターナーは大部分の祭儀や出来事が通過という過程や形式を持っているという事実に着目

Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

ヴィクター・ターナーは

生命の境界線の中に置かれた
敷居と共同体に注目



Ⅱ. 生命思想と東学思想のリミナリティ

A. コミュニタスとリミナリティの違い

リミナリティが既存の地位を喪失し、あらゆる可能性と潜在的な力で満たされた中間的な状態と過程であるとすれば、コミュニティは個人が役割や身分によって分かたれるのではなく、個人の間で自由な関係を形成する

ヴィクター・ターナーは

第二段階である転移、反構造が、反構造の共通点は匿名性、平等性、閾値性
生命回復の鍵とみなす

コミュニティの中で人間は一般的に匿名的存在となる。儀礼の参加者は皆同質化されます。既存の社会的地位や身分などがすべて無化された状態で、積極的に平等主義を受け入れます。社会的役割と権威が逆転し、弱者が権威を掌握

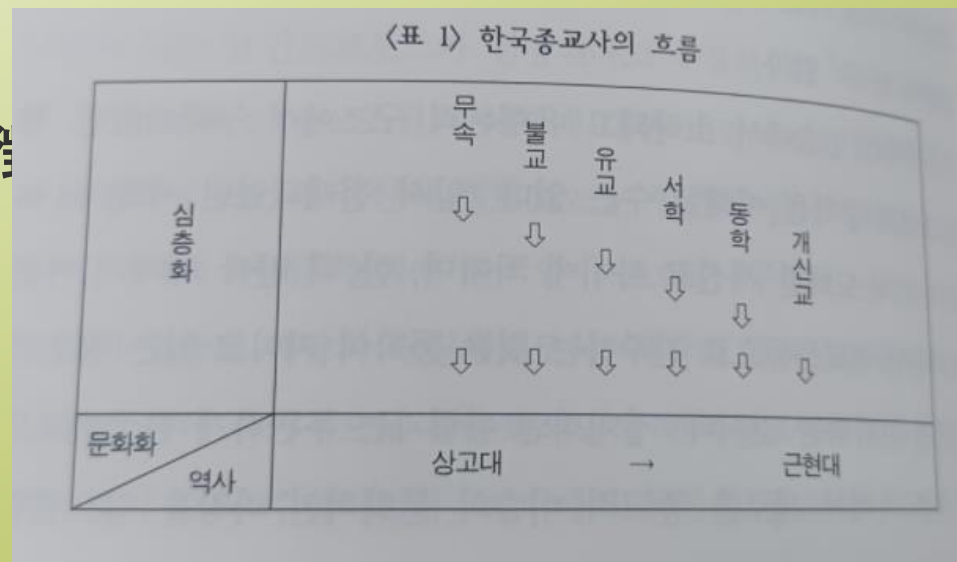
C. 生命儀礼は第三段階の矯正/治癒段階を含む

金芝河は生命とコミュニティの関係を成す。東学が当時成し遂げたリミナリティと一致

Ⅱ. 生命思想と東学思想のリミナリティ

金芝河のリミナリティの特徴

生命思想を
巨視的な精神史の流れとの連携
(鄭鎮弘、崔鍾聖)



II.

ヴィクター・ターナーのリミナリティ社 会劇理論

儒仏仙とキリスト教の

リミナリティの関係
友と敵の比較
(韓泰東)

A. 儒教：XはXであり、-Xは-Xである。

友(X)は友(X)であり、敵(-X)は敵(-X)である。(論語第1章第1節、学びて(X)これを時に習えば(X)喜ばしく、

B. 道教：Xは-Xであり、-XはXである。

友(X)は敵(-X)であり、敵(-X)は友(X)である。
道(X)を道(X)と呼ばば道ではない。(道德經第1章第1節)

C. 仏教：XはXでも-Xでもない。

すべては空である。(般若心經、色即是空、空即是色)

D. キリスト教：Xはすべて

敵を愛せよ。(マタイ福音書)

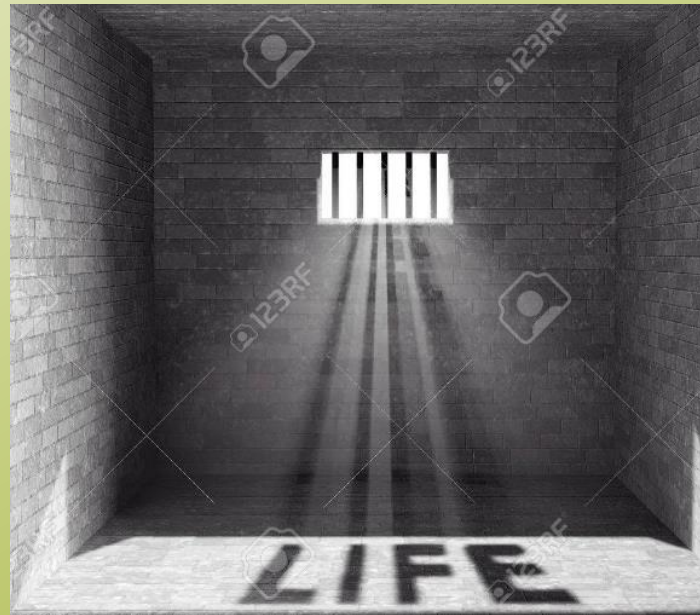
Ⅱ．生命思想と東学思想のリミナリティ

金芝河の東学のリミナリティ

胞胎 — 生命思想

極と極、男女の合一が生命

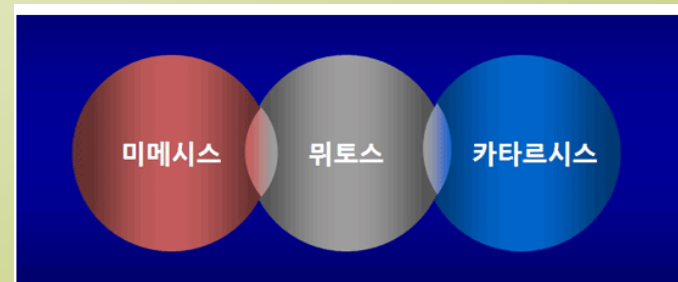
Xは-Xであり、-XはXである。



金芝河の生命リミナリティ の特徴（鄭鎮弘）

- A. 道教：Xは-Xであり、-XはXである。：胞胎
力の認識、生命の発見
- B. 仏教：XはXでも-Xでもない。：養生
ミュトス（感情）。天から地へ降りてくる
- C. 儒教：XはXであり、-Xは-Xである。
ロゴスの始まり、地と天が人間において出会う
- D. キリスト教：Xはすべて
敵を愛せよ。（マタイ福音書）

Ⅱ. 生命思想と東学思想のリミナリティ



金芝河の自生的な生命思想は

アリストテレスに基づく

ポストモダニズムが失敗した地点で
咲いた東洋的リミナリティの始まり (金益

